

民間と行政のパートナーシップで エリアリノベーション

空家を地域の ヨリドコに!



長屋を改修した「ヨリドコ大正メイキン」(右)と「ヨリドコ大正つぼん」(左)

パートナーシップの 事例を紹介

大正区役所では、地域資源を活かしたエリア価値の向上に向け、「大正トンポロマルシェ」など民間イベントを支援し、新規出店・投資を促進。また、空家のリノベーションを通じ、負債を資産に転換する取り組みも行っています。こうした背景から、SDGs目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」を大正区の重点ゴールに選定しました。今回は空家利活用の一例として、大正区と公民連携協定を結んでいるオルガワークス株式会社が生産した、築70年の双子の長屋『ヨリドコ大正メイキン／大正つぼん』を紹介します。



Instagram

ヨリドコ大正メイキン＆
ヨリドコ大正つぼん
大正区泉尾2-21-7

地域に開かれた場をつくる

「作り手のためのシェアアトリエ」として『大正メイキン』が2017年にオープン。その後、空家になったもう一棟を改修し、「アート×福祉×小売りの連携」をテーマに『大正つぼん』



代表の小川拓史さん(左)と
専務の細川裕之さん(右)

が2023年に開業しました。福祉をテーマにした背景について、専務の細川さんはこう話します。「いわゆる福祉サービスを提供するだけではなく、お互いに困りごとを解決し合う場が、地域福祉にとって重要だと考えました。人を支える立場の人の生きやすさも大切ですし、弱者とされる人にもできることがある。」

お互いにフラットな立場で助け合える相互扶助の拠点になれば、と思っています」。

その実践の場が、開業当時から続けている毎月2回の地域の総合福祉相談の場「ミナノ語り場」。テーマは設けず、自由に情報交換や悩み相談などをする場ですが、「意外と皆さん、込み入った話をされるんです」と代表の小川さん。身内でも友達でもない距離感がちょうどよく、自己開示しやすいのは、と分析します。区外からの参加者も多く、大正区の魅力を知ってもらう機会にもなっています。

また、毎月第4日曜日には『大正ヨリドコマルシェ』を開催。毎回楽しみに訪れる方が増え、顔見知りになってあちこちで挨拶を交わす姿が見られるそうです。中には「11時から16時までずっといる方もいらっしゃいますよ」と細川さん。「マルシェの出店者も、コンテンツとしてはなく、人として面白い人や魅力的な人に声を掛けています」。

大正区ならではの距離感

『大正つぼん』が完成してからの2年間は、近隣の方が立ち寄りやすい場づくりを意識してきたというお2人。これまでを振り返り、この場が成り立つのは「大正区だからこそ」と言います。今では地元のイベントにも声がかかるという小川さんは、「大正区はまちの規模感がちょうどよく、行政の方との距離もすごく近い。それと、地域の皆さんの人懐っこさというか、身近で頑張っている人を応援してやろうというあたたかさがある。もしこころが不正じゃなかったら、僕らも違うテーマを選んでいたかもしれません」。6月からは「ヨリドコ」を、地域の公民館みたいに使ってもらえたら」と、館内を自由に体験できる『月1開放デー』をスタート。これからも、ますます地域のより所になっていきそうです。

8月の「大正ヨリドコマルシェ」の日程は、2面の大正区イベントニュースをご覧ください

